



宮城県東部保健福祉事務所 (宮城県石巻保健所) 復興支援ニュース Vol.13



平成24年8月

アート de メッセージ ～復興に向けた思いを雲雀野から～

ありがとう



震災がれきの2次処理を行っている石巻市雲雀野の廃棄物処理施設の壁面に、復興への思いが描かれた作品が壁画『アート de メッセージ』として公開されました。この壁画は石巻市内及び東松島市内の小・中学校、高等学校の生徒が制作。7月2日、県の委託で施設を運営管理する共同企業体（JV）事務所で、この壁画を制作した生徒等を迎え、感謝状贈呈式が行われました。式では、JV 事務所長が「完成した作品は復興へ向かって希望がみえるような作品になった。がれき処理だけでなく、壁絵も多くの方々に見てもらって復興への第1歩にしたい」と挨拶。作品には、復興の花や復興への願いが鮮やかな色合いで描かれています。また、7月14日には同施設敷地内に『「思い出の写真」デジタル公開センター』が開所しました。震災がれきの中から発見された写真等の思い出の品物を持ち主や写っている方々に返そうというプロジェクトで、石巻市や写真みつけるプロジェクトスタッフ等多くの方々の協力により、約80万枚の写真等の洗浄やデジタルデータ化、画像検索システムの整備が行われました。このセンターは平成26年3月末まで公開予定です。



【「思い出の写真」デジタル公開センター開所式の様子】



高齢者支援施設研修会開催

7月20日、東部保健福祉事務所では、高齢者施設の関係者の資質向上目的の研修会を開催し、高齢者施設等の介護職員やリハビリ職員など約70名が参加しました。

研修会では、日本シーティング・コンサルタント協会作業療法士 木之瀬隆先生から講話があり、車いすや福祉用具を活用するシーティングの基礎や、シーティングを活用することで利用者の自立支援や介護職員の身体的負担軽減を図る方法を学びました。また、参加者は実際に車いすに座り講話を受ける体験をしました。

「車いすに長時間座ることが苦痛だと分かった」、「研修会の内容を仕事に役立てたい」など感想がありました。



【車いすに座って講話を聞く受講者】

『シーティング』

いすや車いす等の福祉用具を適切に使用することで、障害のある人の自立を高めたり、介護者の介護負担を軽減する技術

石巻地域自殺対策連携会議開催



自殺予防総合対策センター

毎年、全国の自殺者数はわずかに減少していますが、3万人を超えている状況です。

7月25日、東部保健福祉事務所では警察や仙台弁護士会、医療機関など14ヶ所の関係機関を集めて、自殺対策連携会議を開催しました。当事務所から県内や石巻管内の自殺の状況について説明を行ったあと、各施設での通常業務や自殺対策に関する取り組み状況、石巻地域の自殺対策について意見交換を行いました。

関係機関からは「つながり」や「こころの健康管理」が大事と感じていたり、「連携を取りながら見守り、支援していくことが重要」などと話し合われました。



【自殺対策連携会議の様子】

薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」

7月20日、石巻保健所では石巻市蛇田のイオンモール石巻で『薬物乱用防止・街頭犯罪抑止キャンペーン』を行いました。キャンペーンでは当保健所の他、石巻地区薬物乱用防止指導員協議会、石巻警察署、宮城県石巻好文館高校の生徒等約70人が参加し、薬物乱用防止啓発用のチラシを買い物客に配布しながら麻薬や覚せい剤等の薬物乱用はしないよう呼びかけました。



【薬物乱用防止を呼びかける高校生】

【参加した皆さん】



8月は食中毒予防月間です！

7月31日、石巻保健所及び石巻地区食品環境衛生団体連合会は、石巻市蛇田のイオンモール石巻で『食中毒予防街頭キャンペーン』を行いました。当日は石巻保健所職員他、同連合会の食品衛生推進員等併せて約15名が参加しました。

食品衛生法では今年7月より牛レバーを生食用として販売・提供することが禁止されました。また、食肉の取り扱いに関する消費者の関心も高まっているため、キャンペーンでは生食用食肉（牛肉）について説明したチラシを配布して買い物客を対象に食中毒予防を呼びかけました。



【食中毒予防を呼びかける推進員】

女川町ふれあい農園収穫状況



女川町新田・清水地区の仮設住宅で東北福祉大学の学生達と共に開園した女川町復興ふれあい農園では、現在、キュウリやトマトなどの野菜が収穫を迎えています。仮設住宅に住む住民達が朝夕の涼しい時間帯に草取りや水やりなどの作業を行い、今年の春頃から野菜を育ててきました。農作業中の方々は「野菜作りでお互いの知恵を出したり、教えあったりできる」、「集まってお茶のみをしたり、コミュニケーションの場になっている」と話を聞かせてくれました。



【作業の様子】

復興住宅と福祉のまちづくり研修会

震災から1年が過ぎ、復興計画も策定され、災害公営住宅整備が動き始めました。7月27日、将来を見据えたまちづくりを考えるために、県庁で県や市町村の担当職員が参加し、まちづくり研修会が行われました。

研修会では、立命館大学 塩崎賢明教授が被災地復興の事例を紹介し、「なるべく自力での再建を支援すること」「住民の合意形成が大事。時間をかけて行った方が良い」等と講演があり、また、講演の後には市町での取り組み状況の報告や、情報交換が行われました。



【塩崎教授の講演の様子】

編集後記

夏本番！毎日、暑いですね。花火大会や地域でのお祭りがたくさん開催されているようです。仮設住宅でも夏祭りを開催している話が聞こえてきます。今月は、女川町の復興ふれあい農園取材させていただきましたが、他にも情報がありましたら、右記までご連絡ください。熱中症にならないよう水分をこまめに取りながら夏を乗り切っていきましょう！

問い合わせ先

宮城県東部保健福祉事務所
企画総務班 企画調整グループ
担当：八木田、大崎、佐藤
HP: <http://www.pref.miyagi.jp/et-hc/>
Tel: 0225-95-1416(代表)
Fax: 0225-94-8982
石巻市東中里1丁目4番32号